

平成29年度第2回 四條畷市産業振興ビジョン推進協議会 議事録

- | | |
|-------|---|
| ■開催日時 | 平成29年9月8日(金) 午前10時00分～ |
| ■開催場所 | 四條畷市役所 本館3階 委員会室 |
| ■出席者 | 平井 拓己、坂本 知久、松川 圭一、高見 耕示、中井 春夫、
小宮 宮子、堀 潤治、北田 澄子、
市民生活部 産業観光課(事務局) |
| ■欠席者 | 藤本 正次 |
| ■次第 | 1 産業振興ビジョンの改訂に係る特別委員会における提案事項等について
2 産業振興ビジョンの改訂に係る原案の検討について |

【平井委員長】

ただいまから、平成29年度第2回四條畷市産業振興ビジョン推進協議会を開催します。

私は、当協議会の委員長を拝命しておりますプール学院大学短期大学の平井と申します。よろしくお願いいたします。

それでは、市民生活部の山本様から、ご挨拶をお願いします。

【山本部長】

本日はお忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。また、平素は市制の各分野にわたり、ご理解、ご尽力を賜り、重ねてお礼申し上げます。

先月4日に第1回四條畷市産業振興ビジョン推進協議会を、18日に第2回の特別委員会を開催しビジョンの素案に対し、委員の皆様から多くのご意見、ご提案を頂きました。

本日は、そのご提案、ご意見を踏まえた修正点を担当者から説明しますので、忌憚のないご意見を頂きますようお願いいたします。

【平井委員長】

山本様、ありがとうございます。

なお、田原農業研究クラブの藤本様が体調不良の為欠席ですので、お知らせします。

また、四條畷市特別参与の鷺見様、四條畷市マーケティング監に就任予定の西垣内様が出席されています。

それでは、次第に添って進めてまいります。

まず、次第1の「産業振興ビジョンの改訂に係る特別委員会における提案事項等について」です。事務局より、次第2の「産業振興ビジョンの改訂に係る原案の検討について」と併せて一括して説明されると聞いておりますので、よろしくお願いいたします。

(事務局より、これまでの提案内容及び対応状況を説明)

【平井委員長】

事務局から説明がありました。皆さまからのご意見やご提案を頂戴していきたいと思っております。

では、私から、気づいたことを申し上げます。

前回の議論にもありましたが、KPIを設定して進捗を計るということを考える際には、次のことを検討すべきと思

います。行政がKPIに取り組むときに①コントロールできる数値であるか、②達成してそれが何に繋がったのかを説明できるか、③検証できるかどうか、つまり検証に手間が要る、数年かかる等では設定するには難しいということで、今申し上げたことをポイントにされてはいかかかと思えます。

また、特別委員会で、観光資源のあり方が意見として出されました。皆さまはどのようにお考えか、お聞かせ頂きたいです。

【堀委員】

観光資源についてプロモーションできていないとかではなく、観光資源はないと認めたほうがよいと思います。例えば、ハイキング客は、飯盛山をめざして来ているのではなく、歩くことが目的で飯盛山を活用してくれています。従来の観光とは、目玉の観光施設に行って、食事ができて、宿泊ができるというものだったと思います。

現在は、人との交流を楽しむ、健康を増進する等の目的の為に、今ある資源を利用するというように、観光の視点が時代の変化とともに変化してきていると感じます。

【小宮委員】

先日、瓢箪山夢街道まつりに参加しました。東高野街道沿いの市が集まってイベントをしたいということで、まずは今回は各市のアピールをしてきました。また、大東市と四條畷市の飯盛城址が続日本百名城に選ばれましたが、東高野街道全体を盛り上げていくため、1つの市だけでなく、近隣市が集まっての大きな取り組みもあるのだなと感じました。

事務局の説明の中で、3ページ目の特別委員会を受けての修正とありますが、「進捗管理」について、具体的に何をどの程度すすめるのかという内容が必要だと思います。

【事務局】

まずはビジョンとして示し、実際の取り組みについてはビジョン策定後にアクションプランを作成していきます。

【小宮委員】

私は、ゆずりはというボランティア団体を基盤としていまして、14 ページに記載されている主な取り組みをもとにして、今後できることを考えていきたいと思っておりますが、具体案がなければ、難しいなども感じております。

【平井委員長】

7年前からビジョンに関わりを持っていますが、当時は細かい事業を一つひとつ書き込んでいました。そうなる色彩々と縛られることも多く、また、今回のビジョンでは、大きな枠組みの中で次の年度から新しい取り組みを始めることもできます。メリットもデメリットも存在するということになります。

その他、観光について話が出ましたが、他にございませんか。

【松川委員】

商業の立場でいうと、集客が大きなテーマになります。その中で観光は1つのツールとなります。観光で市外からお客さんに来て頂きたいですが、観光資源があるようでない、特に人が集まるような。飯盛山のハイキングにしても、四條畷から登って、野崎方面に下りていかれる方が多いようにも感じます。

【小宮委員】

そのようなこともあります、そんなことは少ないです。

【松川委員】

野崎と四條畷を比べると、商業施設としては四條畷の方が勝っていると思いますが、イベントを比べると、野崎の方が勝っていると思います。例えば野崎参りは、あれだけ多くの方が市外から集まります。一方、楠公まつりは地元で盛り上がっていて、観光としては難しいというのが現状です。

また、大東市で製作している観光マップと比べると、四條畷のマップの内容は観光に限られており、商業と繋がっていないと思います。もっと魅力を詰め込んで、広めて頂きたいです。

【平井委員長】

商店街は地元の固定客が多く、平日の日中はたいへん賑わっています。市街からの客を呼び込むために、商業組合で議論されていますか。

【松川委員】

話し合いはしていますが、あまり具体的な案がでてきませんし、難しい課題です。大型商業施設ができたのも要因かと思います。そちらに人が流れているように思います。

【北田委員】

ハイキング客が商店街に来てもらうという点では、動線としては難しいところがあると思います。

【松川委員】

ハイキング客には難しいですが、観光名所を充実させ、そこに来るついでに商店に寄ってもらいたい。また、駐車場の完備することも重要だと思います。

【平井委員長】

例えば、駐車場から観光名所へ行く途中に商店があり、寄ってもらうということですね。

【堀委員】

私は、動線の問題ではなく、商店街に買いたい素材がないから寄ってもらえないのだと考えており、魅力のあるものがあれば、少し遠くても寄りたくなると思います。

【平井委員長】

以前、商工会による異業種交流で四條畷の農作物を使って商品化しようという話があったかと思いますが、現在はどのような感じでしょうか。

【高見委員】

10年前に、田原の自然の湧き水を使って2年ほど地ビールを作りましたが、地ビールは保存期間が短いなどの問題もあり、周年記念イベントとして取り組みました。

【坂本委員】

商店街でB級グルメグランプリのようなことを実施されたことはありますか。

【松川委員】

やってみたいと思いますが、実施時期や店舗数の問題などがあり、実際にはしていません。

【坂本委員】

商工まつりや市民の集いなど、イベント時に実施するなどできないのでしょうか。

【松川委員】

そこまで具体的に話は進んでいないです。

【坂本委員】

そこで話題に上がれば、ちょっと寄ってみようかと思うのではないのでしょうか。

【松川委員】

各商店から魅力ある商品を出し、それに対して金賞・銀賞などの賞を設け、店やその商品に金賞マークを貼って売り出してはどうかなどの意見が出たことはあります。

【高見委員】

イベントで実施しても継続してやっていくところがなく、難しいことだと思います。

【平井委員長】

坂本委員の組織では、農産品を使って特産品にするというような他地域の情報はお持ちではないですか。

【坂本委員】

たくさん収穫できる農産品があればできると思います。四條畷では米を利用した農産品が検討できますが、できることは限られてくると思います。例えば酒、米粉で何かを作るなど。

例えば、泉州だと水ナスがあり、全国的になっています。そのような特産品が必要かなと思います。

【堀委員】

従来の中井行公など歴史的資源に関する観光も広がらない、特産品もない。この先、どう変化させていくかを考える必要もありますし、これまでのやり方では広がらないことを認めなければならないです。

一つ大きなテーマが必要で、手段として観光、商業、農業があると思います。歴史的資源を持ちつつ、もっとテーマを広げていく方が良いと思います。

【平井委員長】

エコ田原米をどう展開するのかという話はむずかしいですか。

【中井委員】

瞬間的にはできますが継続が難しい。耕作放棄地や遊休農地なども個人の力では難しい。圃場整備も視野に入りたいが、一朝一夕には進まないのが現状です。

【平井委員長】

いかに持続させるかは、どの分野も課題になります。

色々なものがありそうなのに、転がっていかないという感じがします。では、それを行政に全て任せるのかというと、それも違うと思います。

【堀委員】

自分が旅行をする際は、物が目的ではないです。何らかの行くきっかけで、途中で道の駅があり、せっかく来たから何かを買おうと思う。これが欲しくて来たという訳ではないのです。何かのテーマを設けて交流人口を増やし、人が集まると商売しようという人が集まります。人が来ないのに何かを作ろうとしても、よほどの物を作らなければ人は来ないと思います。

その意味で、人が来るような仕組みが重要です。体験・ハイキング・自転車など、例えば健康といったストーリー性をつくり、まず人を呼び込むことが観光の視点には必要かと考えます。

【平井委員長】

物ではなく、体験やストーリーが重要ということですね。

【北田委員】

山にふれあいの森があるので、そういった場所を利用することもできます。

あまり使われていないですが、だからこそ提案しています。広い場所なので、ふれあいの森に遊ぶ場所をつくり、あそこに行ったら何か体験できるという場所にするのです。

【松川委員】

小楠公墓所や四條畷神社、商店街などには、芸能人の方が来てテレビに映っていますが、だからといって、観光客が来るといことがないです。いろんな方が、四條畷市をPRして下さっても、集客につながっていないのが残念に思います。

【平井委員長】

よく「テレビで紹介されました」と貼ってある店がありますが、それだけでは難しいですね。

商店街や各店舗で面白い取組みや事例などありませんか。

【松川委員】

商工会では、ホームページに各店舗の You Tube に掲載していますが、すべてではないです。やはり仕掛けが難しいと感じます。

【堀委員】

私は、収穫体験と飲食業、古民家の撮影場所貸出の事業をやっている、8割は市外のお客さんです。年間で3,000人以上が来られます。観光バスでの訪問や海外から来られることもあります。観光資源を作ったわけでもなく、都市近郊で田舎体験ができる、田舎の雰囲気味わえるということで、広告費もかけておらず、口コミで広がっています。インスタグラムに掲載してもらえるような場所を作って、お客さんに情報発信してもらうという仕組みで、四條畷市の資源・環境を活用していけるのではないのでしょうか。

【平井委員長】

SNS活用ということですね。「インスタ映え」という言葉は、流行語大賞になるのではないとも言われています。個人のこのような取り組みが、来街者の増加につながるのではないかと考えています。

商工会では、次年度以降に宣伝やプロモーションを予定していることはありませんか。

【高見委員】

地域振興事業で商工まつりを毎年開催しています。観光資源は作ろうと思って作れるものではない。ソフト面を充実させて、それを今ある観光資源にからめていくというのが重要であり、それで、観光客が 2 倍になるということではありませんが、住みやすい街づくりに繋がっていくと考えます。

【平井委員長】

四條畷市に移住する人を増やすということですね。それによって商業のベースが広がることに繋がりますし。

例えば東大阪のように町工場の盛んな街は、「産業観光」という切り口ですすめており、小中学生や修学旅行生向けに工場見学を受け入れるという取り組みをされていると聞いています。

また、四條畷市は、山や自然が近いうえに都心からもアクセスしやすいということも強みだと思います。

プロモーションは、誰に対してどのように行うのか、これから議論をすることになりますが、外国の方を呼び込みたいのか、他地域の方に来てほしいのかによっても色々と考え方が変わると思います。

堺市では、古墳群が世界遺産登録の為の国内推薦に決まり盛り上がりを見せ始めましたが、役所内では、さあ、どうしようかという議論が起こっています。世界遺産になろうかという資産を持ちながら、本当に来街者が増えるのか、通り過ぎるだけではないかと。資産があれば自動的になにかが起こるということではないのです。

他にプロモーションについての意見はございませんか。

【北田委員】

昨日の読売新聞の記事に安全木登りの記事がありました。ふれあいの森で自然の木を使って木登りをするというのはどうでしょう。今の子供たちは、そういう経験が無いので、場所を提供すれば、何度も来てもらえるのではないかと思います。

【堀委員】

企業や団体に向けた研修の一環としても提供できると思います。

【北田委員】

森で遊んだ後に、商店街で美味しい食べ物を買ってくれたら良いですね。今、商店街でクレープの店が流行っていて、毎日、高校生が行列しています。

【平井委員長】

流行りもののばかりを追うことはできませんが、一方で、活かせるような物が活かされていないのかも知れません。

ビジョンの書き方として、行政がやるという視点だけでなく、市民と共有して取り組んでいきたいという趣旨が感じられます。

【小宮委員】

先ほどのクレープ店の話から思うのですが、若い人の新しい発想を聞ける場が少ないのではと感じます。私達では気付かないような発想が生まれるのではないのでしょうか。そこから集客に繋がることがあるような気がします。

【事務局】

皆さんの意識を変えていくということは重要だと思います。それぞれの役割のなかで、各々が持つ知恵を引き出せるような仕組みを作っていくのは大切なことで、ただ今のご意見は参考にさせていただきます。役所が解決してくださいというのではなく、自ら取り組める仕組みが必要だと感じています。

【堀委員】

四條畷市で一番ブランド価値がある四條畷高校の生徒から意見を出してもらえればと思います。

【平井委員長】

以前、四條畷市と大阪商業大学の学生で、観光ガイドを作るなどの活動をしていました。大学ではアクティブラーニングといって、外部に出て社会人としての基礎力を身に着けるという活動をしています。その活動の場として、行政だけではなく、商業、工業、農業など色々な環境をオープンにいただけると、手を挙げる学校は多いと思います。堺市では本校も実践しています。昨年、商店街でハロウィンイベントの手伝いをしました。お菓子の代わりに、堺市の有名産業である線香を交換するというものでしたが、仮装コンテストもあり、盛り上がりました。Instagramも得意ですから、すぐに載せて、アピールにもなったと思いますし、テレビ取材なども来て若者が集まる仕掛けになったと思います。

【小宮委員】

本市はドイツのメアブッシュ市と友好都市を結んでいますが、四條畷高校の生徒がメアブッシュ市の学生とインターネットを介して交流するということを聞いています。このように、私達にはない発想とツールを用いてできるのは、若者だからこそです。

【平井委員長】

これまで、パブリックコメントを募集しても意見がでないということからも、もっと関心を持ってもらい、色々な人を巻き込まなければと、いつも感じています。

先ほどの堺市の商店街は、普段の昼間は人が少ないのですが、与謝野晶子が住んでいた場所だということに。ですが、四條畷市の商店街は、人が多いし活気があるので色々なことが出来そうな気がしますが、現時点では繋がっていない。意識を持って人や物を繋げるために、行政を上手く活用していく必要があると思います。

ここまで、観光資源やプロモーションの話が多くなりましたが、他の事でもご意見ございませんか。

【事務局】

冒頭で修正内容を説明しましたが、その点について何かご意見やご要望などはございませんか。

また、平井委員長からご意見のありましたKPI設定について、必要に応じて見直しを検討いたします。

【平井委員長】

KPIは、後々になってから大変になるので、だれでもが検証可能な基準にする必要があります。

また、今後、パブリックコメントの募集が始まります。四條畷には大きな産業がある訳でもなく、市が産業振興を進めているというイメージが浸透しにくい状況ですので、委員の皆様にも情報発信やご意見ご提案を出しやすい雰囲気を作っていただくよう、ご協力をお願いいたします。

【堀委員】

市外から来てもらう話しが多かったですが、やはり住み続けてもらう仕組みが必要ですし、それが、ベースでとるべきだと思いますので、商業、工業、農業も含めて、地元教育や子ども達のふれあいも重視していくことが大切であると思います。

【平井委員長】

観光資源であっても市民の皆さんが知らないことも多々あります。市民も知らないのに、どうやってプロモーション

ンするののかということもお聞きします。市民が知ることは、定住人口を増やすことに繋がってくると思います。

【平井委員長】

それでは、今までの議論を踏まえて原案として取りまとめていくこととなりますが宜しいでしょうか。(委員了承)では、これで進めて頂きたいと思います。

次に、次第3についてですが、皆さまから何かご提案などございませんでしょうか。

無ければ、最後に事務局から、今後のスケジュールについて説明いたします。

(事務局より、今後のスケジュールを説明)

【平井委員長】

パブリックコメントを経て、今回は10月末に開催となります。今後も引き続き、皆さまからのご意見ご提案を頂きたく、お願いいたします。

以上で、平成29年度第2回四條畷市産業振興ビジョン推進協議会を終了いたします、皆様ありがとうございました。